

4. 自然 生きもの プログラム ②③

屋
外
+
室
内

バードウォッチングで鳥が暮らす環境を考えよう

ねらい

自宅の庭、公園、川、干潟、森林など、様々な環境に生息する野鳥を観察し、沖縄が渡り鳥の重要な休息地であることに気づき、鳥から見える沖縄と世界の環境とのつながりについて考える。

問いかけの例

私たちの身近な自然に生息する鳥類について考える問いかけを行う。

- 沖縄にはどんな野鳥がいるか知っていますか？
- 野鳥はどんな環境に暮らしていますか？

手 順	内 容
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に「問いかけ」を行う。 ・安全や環境への配慮について説明する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に観察方法について説明する。 ・ワークシート③～⑦を用いて観察を行い、ワークシート①に記録する。 ・ワークシート①の渡りについて、割合を記入してもらう。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②を用い、振り返りを行う。 ・プログラムを経験して、私たちができることを考え、意見・感想を聞く。

準備するもの (☑で確認)	<input type="checkbox"/> ワークシート①～⑦ <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 野鳥図鑑 <input type="checkbox"/> 双眼鏡 <input type="checkbox"/> フィールドスコープ <input type="checkbox"/> デジタルカメラ <input type="checkbox"/> 救急セット
------------------	---

場所・時間帯・自然条件

- 緑が多い公園、森林、干潟、海岸林、身近な公園で観察できる。
- 陸の鳥の場合は夜明け前後が最も多く見られる。干潟や海岸の場合は干潮時を目安にする。
- 一年中。ただし種類によって適した時期がある。

安全のために・環境配慮

- 安全のために（P14）の、事前の準備、環境ごとの安全管理を必ず確認すること。
- 環境配慮事項（P15）の、ごみについて、環境ごとの環境配慮を必ず確認すること。

自
然

ワークシート① （コピーして使ってください）

鳥を観察して記録しよう

ワークシート③～⑦の野鳥図鑑を使って、野鳥を見分け、種類と数を記入しましょう。渡り区分は、鳥の写真資料を参考にして記入してください。

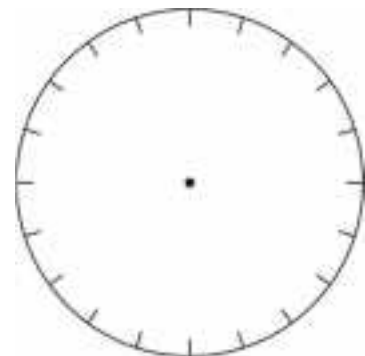


調査年月日	年 月 日	時 間	: ~ :	天 候
場 所 (環境)		調査員		
鳥の名前		特徴・観察	個体数	渡り区分
(例)	メジロ	目の周りが白い、緑色の羽	2	留・夏・冬・旅・迷
1				留・夏・冬・旅・迷
2				留・夏・冬・旅・迷
3				留・夏・冬・旅・迷
4				留・夏・冬・旅・迷
5				留・夏・冬・旅・迷
6				留・夏・冬・旅・迷
7				留・夏・冬・旅・迷
8				留・夏・冬・旅・迷
9				留・夏・冬・旅・迷
10				留・夏・冬・旅・迷
11				留・夏・冬・旅・迷
12				留・夏・冬・旅・迷
13				留・夏・冬・旅・迷
14				留・夏・冬・旅・迷
15				留・夏・冬・旅・迷
合 計				

沖縄の鳥の渡りについて調べよう

今日観察できた鳥の種類を渡り区分で分けて、割合を計算しましょう。

渡り区分	種類数	割合 (%)
留鳥		
夏鳥		
冬鳥		
旅鳥		
迷鳥		
合計		



※グラフは5%刻みになっています。

ワークシート② （コピーして使って下さい）

振り返り

野外での野鳥の観察を通してわかったこと、感じたことを、まとめましょう。
他の人の意見やアイデアも参考にしましょう。



沖縄では、どの季節に見られる鳥の種類が多いですか？その理由は何でしょうか？

鳥がいつまでも暮らせる環境を維持するためには、どのようなことが必要ですか？

やってみよう

- 野鳥の調査を続けてみましょう。環境や季節によって見られる種類に違いがあります。また、同じ場所でも、鳥の出現状況によって環境の変化がわかることがあります。簡単な調査でも、継続することで「野鳥と環境」のつながりについて理解が深まります。
- 野鳥が訪れる庭づくりにチャレンジしましょう。観察を通して、鳥が好む環境や、餌などを知り、庭づくりの参考にしましょう。

もっと知りたい


調べる

見学する

沖縄の野鳥
沖縄野鳥研究会（本）
沖縄の野鳥を写真で見ながら学べる図鑑です。



環境省 漫湖水鳥・湿地センター（HP）
漫湖の歴史や自然を学べる施設です。



国頭村 安田くいな・ふれあい公園（HP）
ヤンバルクイナの生態や環境の状態がわかる資料ブースや観察ブース等があります。

自然

野鳥観察シート

※緑のシートは陸の鳥、青のシートは水辺の鳥を示しています。

森林や緑の多い住宅地などで見られる鳥たち(留鳥)



メジロ 11.5cm
目の周りが白く、かわいい声でさえずる。森や林、緑の多い住宅地でもよく見かける。



ヒヨドリ 27.5cm
キーンキーンと鋭い声で鳴く。森や林で見られる。方言でスーサーと呼ばれている。



シロガシラ 18.5cm
鳴声が「チョコレート」と聞こえることでよく知られる鳥。農作物を食い荒らすことでも有名。



スズメ 14.5cm
民家の周辺で暮らす身近な鳥。秋から冬にかけて群れて草の種を食べる。



シマキンバラ 11cm
餌い鳥が逃げ出して野生化したと言われている。よく街路樹で繁殖している。



ゼツカ 12.5cm
チガヤの草根などで見られる小さな鳥で、鳴声から「チンチナー」と呼ばれる。



イソヒヨドリ 23.5cm
最近では、もっとも身近な鳥。住宅の軒下や、屋根のすきま、学校のベランダなど、建物に巣をつくる習性がある。オス（左）とメス（右）では模様がいちふ違う。とても美しい声でさえずる。



ツバメ 17cm
春と秋に渡ってくるツバメ。リュウキュウツバメより大きく、腹が白い。

自然

森林や緑の多い住宅地などで見られる鳥たち(留鳥)



ハシブトガラス 56.5cm
 沖縄で普通に見られるガラス。雑食性で何でも食べる。



シジュウカラ 14.5cm
 ツツピー、ツツピーとさえずる小鳥。ネクタイみたいな黒い模様がある。



ウグイス 15.5cm
 ホーホケキョでおなじみの鳥。声は美しいが姿は地味。



ズアカアオバト 35cm
 全身が緑色のバト。尺八のような声で鳴く。



キジバト 33cm
 地面に降りてガジュマルの実などをついばんでいる姿がよく見られる。デデ、ポーポーと鳴く。



リュウキュウサンショウクイ 20cm
 ヒリリ、ヒリリと鳴きながら飛ぶ。森林や村落の林で見られる。



リュウキュウツバメ 17cm
 沖縄で一年中見られるツバメの仲間。渡りのツバメと比べると小さく、腿には灰色が混じる。



リュウキュウツミ 30cm・27cm
 タカの仲間ではただ1種、沖縄島で繁殖する。スズメやメジロ、シロガシラなどの小鳥が餌。



コゲラ 15cm
 スズメぐらいの大きさのキツツキ。森の中で木に丸い穴を開けて巣を作る。

自然

川や湿地で見られる鳥たち（留鳥）



ゴイサギ 58cm
夜行性のサギで、川に住んでいる。夜飛びながらカラスのようにないので、ユーガラサーと方言で呼ばれる。



クロサギ 62.5cm 左：白色タイプ 右：黒色タイプ
名前のおり、黒いサギだが、白いタイプも多い。海岸に多く、餌は魚など。県内で一年中見られるのはこのサギで、他の種は秋にわたってきて、春にはいなくなる。



リュウキュウヨシゴイ 40cm
水田や湿地、川の中の草地などで見られる。警戒すると首を伸ばす。



バン 32.5cm
水辺なら小さな川から水田まで、普通に見られる。黄色と赤のくちばしが目立つ。



シロハラクイナ 33cm
顔から腹にかけて白くてかわいいクイナの仲間。水田や沼地、川に住んでいる。



リュウキュウヒクイナ 22.5cm
全体的に緑褐色で、顔から腹にかけて赤っぽい。水田で早朝や日暮れ頃に見られる。



カワセミ 58cm
川辺の止まり木からダイビングして魚をとる。スズメぐらいの大きさの水鳥。エメラルドブルーが美しく、飛ぶ宝石と呼ばれる。



シロチドリ 17.5cm
チドリの仲間では県内で唯一繁殖する種。砂浜や埋立地など開けた環境で子育てをする。

自然

川や湿地で見られる渡り鳥たち



アオサギ 93cm
国内のサギの仲間では最大。ツルと間違われることもある。海岸や干潟、河川で見られる。
（冬鳥9～5月）



ダイサギ 89cm
県内では見られる白いサギの仲間では一番大きい。水田や干潟、海岸で見られる。（冬鳥9～5月）



チュウサギ 69cm
ダイサギより一回り小さい。水田、干潟、湿地。刈られたあとのキビ畑で1羽でいることも。
（冬鳥9～5月）



アマサギ 50cm
左：冬羽 右：夏羽
冬に水田や畑のトラクターの後を集団で追いかけているのはだいたいこの鳥。冬羽ではほぼ全身白いが、夏羽は名前の由来である「亜麻色」の美しい色が頸部から胸に現れる。（冬鳥・旅鳥：8～6月）



コサギ 61cm
足指だけが足袋をはいたように黄色いのですぐ見分けられる。水田、河川、干潟などで見られる。
（冬鳥：9～6月）



クツラヘラサギ 74cm
しゃもじのような長いくちばしを左右に振りながらエサを探す。干潟などで見られる。
（冬鳥11～3月）



カワウ 82cm
ダム周辺や干潟に集団でいるのが見られる。羽を広げて乾かす姿が特徴。V字になり集団で飛んでいる（冬鳥11～2月）



タシギ 27cm
水田や河川、湿地などで普通に見られるシギの仲間。くちばしが長く、地面を頻繁につついてえさを取る。

自然

川や湿地で見られる渡り鳥たち



コチドリ 16cm
水田や干潟、河川で見られるチドリ仲間。目の周りの黄色いリングが目立つ。冬鳥（7～4月）



ムナグロ 24cm
名前の通り夏羽では顔から腹にかけて黒い。水田や河川、干潟などで見られる。旅・冬鳥（8～5月）



セイタカシギ 37cm
赤く長い足で踏むように歩くことから、水辺のパレリーナと呼ばれる人気がある鳥。冬鳥（8～5月）



キセキレイ 20cm
河川沿いや農地、水田など水辺を好む。尾を上下に振りながら歩く姿が特徴。冬鳥（9～4月）



ハクセキレイ 21cm
キセキレイと似ているが、黄色部分が無く白黒のみ。水辺、芝生などで見られる。



アオアシシギ 35cm
干潟や海岸、水田でよく見られる白っぽいシギ。飛立つときによく鳴く。旅・冬鳥（8～5月）

森林や畑、緑の多い住宅地などで見られる渡り鳥たち



サシバ 49cm
カラスほどの大きさのタカで、高い木や電柱に止まっているのを見かける。（冬鳥：10～4月）



チョウゲンボウ ♂75cm ♀53cm
ハトぐらいの大きさのタカ。畑でネズミやバッタなどを捕まえる。（冬鳥：9～4月）



シロハラ 24cm
森林や公園、庭などにもいて、ガサガサッと落ち葉をひっくり返す。（冬鳥：11～3月）

講師用資料①

ワークシート①回答例

<ポイント>

- ・ワークシート③～⑦を用い、野鳥の見分け方ポイント、渡り区分について教える。
- ・見分けられなかった野鳥は、あとで調べるため特徴や観察状況をメモする。
- ・どんな場所（環境）に、どの鳥がいたのか意識して観察する。
- ・沖縄の鳥と、見られる時期の資料で渡り区分を集計し、鳥の種類で季節が見えてくることを学ぶ。

野鳥を観察して記録しよう

記入例)

調査年月日	2003年2月11日	時間	07:30 ~ 08:30	天候	はれ
場所 (環境)	ダム湖周辺	調査員	沖縄太郎、琉球花子		
鳥の名前		特徴・観察	個体数	渡り区分	
(例)				留・夏・冬・旅・迷	
1	シロハラ	お腹が白い	2	留・夏・(冬)・旅・迷	
2	ノゴマ	喉の部分が赤い	1	留・夏・(冬)・旅・迷	
3	アオサギ	黒と灰色の大きいサギ	1	留・夏・(冬)・旅・迷	
4	ウグイス	ホーホケキョと鳴いた	3	(留)・夏・冬・旅・迷	
5	メジロ	目の周りが白く若草色	2	(留)・夏・冬・旅・迷	
6	ダイサギ	白くて大きいサギ	1	留・夏・(冬)・旅・迷	
7	アオジ	草むらから出てきた	1	留・夏・(冬)・旅・迷	
8	ヒヨドリ	キィーキィーと鳴いていた	2	(留)・夏・冬・旅・迷	
9	リュウキュウヨシゴイ	水辺の草地で首を伸ばしていた	1	(留)・夏・冬・旅・迷	
10	キジバト	首のところに水色の模様がある	2	(留)・夏・冬・旅・迷	
11	サシバ	高い木にとまっていた	1	留・夏・(冬)・旅・迷	
12	ツバメ	電線にとまっていた	10	留・夏・冬・(旅)・迷	
13				留・夏・冬・旅・迷	
14				留・夏・冬・旅・迷	
15				留・夏・冬・旅・迷	
合計			27		

渡り区分	説明	例
留鳥	季節移動をせず、同じ地域に一年中暮らす鳥	ヤンバルクイナ、ノグチゲラ
夏鳥	春～夏に繁殖のために渡ってきて秋に去る鳥	コアシサシ、アカショウビン
冬鳥	秋から春にかけて越冬のために渡ってくる鳥	ダイサギ、サシバ
旅鳥	春と秋の渡りの途中に立ち寄る鳥	ツバメ、アカハラダカ
迷鳥	普通は渡ってこないが、台風などで偶然に現れる鳥	ブッポウソウ、クロハゲワシ



講師用資料②

野鳥観察のベストシーズンは？～鳥から見える沖縄の季節～

記入例)

ワークシート①（p.167）の観察結果の例で計算すると、以下の表とグラフができる。
 また、旅鳥や迷鳥の多くが冬に渡ってくる種なので、約8割が秋から春に観察できる。
 このことから、沖縄での鳥の観察のベストシーズンは「秋から春」となる。

渡り区分	種類数	割合
留鳥	5	41.7
夏鳥	0	0
冬鳥	6	50
旅鳥	1	8.3
迷鳥	0	0
合計	12	100



ワークシート②回答例

<ポイント>

- 鳥の観察や渡りのことを学習して、鳥の生息と季節との関係について考える。
- 沖縄では、冬鳥が最も多いこと、水鳥が多いことに気づき、これらの鳥たちが暮らせる環境について考える。

振り返り

沖縄では、どの季節に見られる鳥の種類が多いですか？その理由は何でしょうか？

- 冬に渡ってくる鳥が多いことがわかった。
- 冬に渡ってくる鳥は沖縄より北の寒い地域に住んでいる。沖縄は冬も暖かいから餌に困らない。

鳥がいつまでも暮らせる環境を維持するためには、どのようなことが必要ですか？

- 渡り鳥がやってくる環境を知って、毎年同じ場所にきても冬を越せるよう生息場所を守っていきたい。
- 水辺の鳥が多いことがわかったので、水田や干潟の環境を守っていくべき。